

2025年度第2回町田市環境マネジメントシステム外部評価委員会 議事要旨

- 【日 時】 2025年11月11日（火）午後5時00分～午後6時30分
- 【場 所】 町田市庁舎2階 2-1会議室
- 【出席者】 委 員：奥委員（委員長）、山川委員（職務代理）、赤石委員、
屋委員、古後委員、斎藤委員、石川委員、杉崎委員、前田委員
事務局：町田市環境資源部 岩岡
環境政策課 高橋、田村、高山、島田
コンサルタント：アオイ環境株式会社
- 【欠席者】 な し
- 【傍聴者】 な し

議題

2024年度実績の評価について

1 第1回委員会での質問に対する回答

- 事務局から、説明を行った。

2 一次評価について

- コンサルタントから、説明を行い、司会を務めた。

評価項目(1)温室効果ガス・エネルギー

コンサルタント：全体的に高めの評価がつけられ、昨年より平均点が少し上がっている。

良い評価をつけられた石川委員、いかがか。

石 川 委員：細部の判断は難しいものの、昨年から努力されて温室効果ガス排出量を削減しているため期待できると思い、評価点4をつけた。

コンサルタント：前田委員、いかがか。

前 田 委員：基準年度比38%削減という結果は非常に評価できる。

コンサルタント：古後委員、いかがか。

古 後 委員：エネルギー起源の温室効果ガス排出量を削減することは大変である。給食センターが新設された中で削減したことは素晴らしく、高い努力の結果だと思う。

コンサルタント：斎藤委員、いかがか。

斎 藤 委員：年度ごとに事情は変わるが、着実に減少傾向が見られるため評価点4をつけた。生成AIは非常に大きく生産性に関わるため、今後の活用方法が大きな課題になると考えている。

コンサルタント：山川委員、いかがか。

山 川 委員：再エネ100%電力へ切り替えることで温室効果ガスを大幅に削減している点、さらに一過性ではなく「町田市の電力調達に関する環境配慮方針」を策定したことは高く評価できる。一方で、方針にも記載されている通り、予算の範囲内での実施となるため、電力会社の価格設定によって契約の安定性には不確実性がある。そのため、根本的なエネルギー使用量の削減が重要である。すでに実施されていると思うが、増加した施設の要因分析や対策に重点を置いていただきたいと考える。最終的な排出量換算ではこうした部分が見えにくいため、エネルギー使用量についても、より分かりやすい形で管理されることが望ましい。

コンサルタント：温室効果ガス排出量は大幅に削減されたため高く評価される一方で、エネルギー使用量への取り組みも重要であるということだった。山川委員がおっしゃったように、再生可能エネルギーは価格変動等により、毎年同じ量を契約できるとは限らないという不確実性があることも考慮して評価いただいたと思う。今回の意見を踏まえ、最終的な二次評価に反映していただきたい。

評価項目(2) 資源（市庁舎の廃棄物）

コンサルタント：前回より平均点は上がったが、評価できる点と懸念が残る点の両方について意見をいただきたい。杉崎委員、いかがか。

杉 崎 委員：経年変化から、ペーパーレス化が進んでいることは評価できる。今後は、学校等において必要な量と削減すべき量のバランスをどのように考えるかが重要だと考えている。事業系一般廃棄物の増加要因として勤務人数の増加が挙げられているが、ごみを出すことへの意識向上が必要だと考える。

コンサルタント：IT化に関してもご意見いただいている斎藤委員、いかがか。

斎 藤 委員：IT化によりペーパーレス化が進んだことは自然な流れである。一方で、学校でのタブレット導入は学力低下を招くという報告もあるため、単純なIT化ではなく最適化が必要だと考える。

コンサルタント：屋委員、いかがか。

屋 委 員：削減目標の達成やペーパーレス化の推進は評価できる。実際に、本委員会もペーパーレスで実施されている。目標を達成した次の段階として、さらに高みを目指していただきたい。また、市庁舎以外の廃棄物を見える化し、新たな目標を設定することが望ましい。

事 務 局：現在、廃棄物に関する計画を作成中であり、さらなる削減を目指す目標を設定し、町田市一般廃棄物資源化基本計画アクションプランに反映させる。併せて、市庁舎以外の施設も対象に含める予定である。

コンサルタント：赤石委員、いかがか。

赤 石 委員：紙の使用量は減少しているが、どのような取り組みによって削減したのかを明確に示すことが望ましい。紙の使用量は一定の水準まで削減すると、それ以上の削減はできなくなり、その後は裏紙の利用やリユースなど細かな努力が必要となる。そうした取り組みが数値として現れるとより良いと考える。

コンサルタント：奥委員長いかがか。

奥 委員長：廃棄物の排出量を詳細に確認したところ、資源物の減少によって全体の排出量は削減されているが、資源物を除くと廃棄物の量は増加している。実績報告書では評価点5がつけられているが、廃棄物そのものを削減して初めて評価点5とすべきであると考え。また、前回の委員会において、職員の分別徹底に改善の余地があることが判明したため、評価点4とした。

コンサルタント：削減目標を既に達成しているという点を評価いただいた。一方で、次のステップをどのように設定するか、また、紙ごみや資源物の削減の限度を踏まえ、適切な使用量と削減量をどのように考えていくかという課題が残っている。今回の意見を次の評価に活かしていただければと思う。

評価項目(3) グリーン購入達成率

コンサルタント：グリーン購入については、前回からも厳しい意見があるが、改めて考えを伺いたい。前田委員、いかがか。

前 田 委員：非適合理由に、「グリーン購入適合品がなかった」という内容があったことから、評価システムの見直しが必要である。また、啓蒙活動のみでは属人的であり不十分だと考えられる。特に、習慣の変更は困難であるため、システムをしっかりと整えることが重要である。

コンサルタント：古後委員、いかがか。

古 後 委員：自治体ごとのグリーン購入達成率を見ると、他の自治体は概ね90%程度だが、町田市は83%と低いため、より厳密な要因分析が必要である。直近数年の達成率が横ばいであることから、改善いただきたい。

事 務 局：グリーン購入の対象の決定は市町村に委ねられており、町田市は厳しく設定していると考えられる。今後もその基準で100%達成を目指すため、他自治体とは一概に比較できない点がある。

コンサルタント：杉崎委員、いかがか。

杉 崎 委員：昨年、委員を務め始めた当初はグリーン購入を知らなくても、2年目になると内容を理解できているにもかかわらず、毎回同じ理由で非適合が出ることは不思議だ。非適合理由に価格優先と記載されており、予算措置が必要であることは明らかである。前回の委員会で、市議の考えを聞きたいと

述べた理由もそこにある。また、市庁舎以外の施設における理解度や研修内容および対象が不明であり、これを精査しなければ同じことが繰り返される。参考資料２の８ページにある活動テーマ別の実績評価において、他の項目は評価点４または５である一方、グリーン購入のみが低い。研修による意識づけを行い、同じ課題が繰り返されないようにすべきである。

事務局：部長級の職員が参加する省エネルギー会議では、グリーン購入の話題が毎回取り上げられている。新たな取り組みとして、各部の達成状況を全職員が閲覧できる場所で公開し、意識づけを強化している。その結果、部長の意識向上が進んでおり、今後の成果が期待される。

コンサルタント：前田委員と同じく、斎藤委員からも購入の仕組み自体を見直すべきという意見が出ている。斎藤委員、いかがか。

斎藤委員：毎年同じ問題が繰り返されており、啓蒙のみでは改善が難しいと考えられる。町田市グリーン購入ガイドラインがベースにあると思うが、運用上での工夫が必要だ。例えば、購入時の画面にグリーン購入が基本である旨を目立つように記載しておけば、それに沿って購入する人が増えるのではないか。啓蒙だけでは忘れてしまう人が出てくるため、システム的な対応が必要である。

事務局：現在のシステムでは、消耗品の購入処理の際は必ずグリーン購入を選択することになっている。ただし、理由を入力すれば非適合品も購入できるため、改善が必要であり、システムの件と合わせて検討する。

コンサルタント：赤石委員、いかがか。

赤石委員：極端に考えれば、環境政策課で購入した物品を小中学校に提供することで、１００％という目標を達成できる。必ず１００％を実現するためには、抜本的な変更も一つの方法である。

事務局：そうできることが望ましいが、実施には多くの職員が必要となる。ただし、先ほど述べたように、各部が達成率を競える取り組みを進めており、一部の部では、購入者が多いと意識していない職員の割合も増えるため、購入担当者が複数課の購入をまとめて行い、人的ミス防止にもつなげている事例がある。こうした取り組みを省エネルギー会議で共有し、市役所全体での一括対応は困難だが、部単位での取り組みを進めていく。

石川委員：グリーン購入が低下している要因は、購入者の認識不足ではなく、価格や品質を優先して適合品を購入していないことによるものと資料から読み取った。その場合、意識改革だけでは改善が難しいのではないか。

事務局：その通りである。予算の制約はあるが、価格だけでなく適合品に合わせて業務を進められるよう対応する方針を発信する必要がある。価格優先を認めていては改善しないため、意識改革を含めて発信していきたい。

コンサルタント：グリーン購入は毎年様々な工夫をしているが、まだ改善の余地がある。
来年度の結果に期待したい。

評価項目(4)エコオフィス活動（職員共通）

コンサルタント：昨年よりも評価が下がっているが、改善点等についてお聞きしたい。屋
委員、いかがか。

屋 委員：職員全体が意識を高く持ち、実践していると評価できる。使用割合が大
きい要素として空調があると考えられるが、行き過ぎた活動ではなく、
特に夏の暑さを踏まえた無理のない取り組みが重要である。

コンサルタント：石川委員、いかがか。

石 川 委員：前回の委員会では、プラスチックごみの廃棄や、状況に応じたチェック項
目の改定について意見があった。事務局からは経年比較のため変更は難し
いとの説明があったが、夏の暑さなどを踏まえ、エアコンの設定温度を基
準にするのではなく、昨今の気温に応じて変更するなど、状況に応じて変
更する項目も設けるとよいのではないか。また、今年であればプラスチッ
クごみの廃棄はないことを確認する項目を追加するなど、イレギュラーな
事柄についても取り組んでいる状況を示せるようにしたらどうか。

事 務 局：おっしゃる通りである。経年変化で確認する項目は継続しつつ、状況に応
じて柔軟に対応する項目も追加する。

コンサルタント：山川委員、いかがか。

山 川 委員：一定の成果が見られる。一部評価が低い項目については、要因を分析し、
改善につなげる取り組みを継続していくとよい。

コンサルタント：奥委員長、いかがか。

奥 委員長：昨年と同様、評価項目(3)におけるグリーン購入達成率の評価点は2であ
るのに対し、エコオフィス活動におけるグリーン購入の項目では4.2と
高くなっている。その不整合の原因は定かではないが、エコオフィス活動
では感覚的に評価がつけられている可能性がある。そのため、実際の達成
率とエコオフィス活動での評価が連動するような工夫が必要だと思う。ま
た、前回の委員会を受けて、ごみの分別についてしっかり見ていく必要が
ある。

杉 崎 委員：評価項目(3)のグリーン購入達成率の結果は低いにもかかわらずエコオフ
イス活動での評価点が高いことについては、意識改革していただきたい。
また、購入量が少なければグリーン購入をしなくてもよいと思っている職
員がもしいるのだとしたら、意識改革が必要である。

事 務 局：エコオフィス活動におけるグリーン購入の項目について、数年前までは各
担当者の感覚で評価していたが、現在は達成率に応じて評価点を明確に区

切ることで改善している。一方、部署ごとの評価点の平均値を示しているため、購入数が考慮されず、実際の達成率よりも評価点が高くなる傾向がある。評価項目(3)におけるグリーン購入達成率では、寄与度の約3分の2を占める学校の達成率が比較的低いため、全体の達成率が低くなっている。今後、不整合を解消するため、整理していきたい。次に、ごみの分別の件については、事業系一般廃棄物にプラスチックごみが混入することは問題である。環境資源部として組成調査を実施しているため、その結果をもとに各部長に発信し、少しでも減らすよう取り組む。

評価項目(5)エコオフィス活動（施設担当部署）

コンサルタント：昨年とほぼ同様の評価だが、委員によってばらつきがあるため、意見を伺えればと思う。石川委員、いかがか。

石川委員：事前の質問に対して、「照明スイッチに点灯範囲を表示」という点検項目は、シールなどを貼付するという認識でよいとの回答があった。それはすぐにでも対応可能な内容だと思う。忙しいとは思いますが、できなかったと回答するのはどういう意識かと感じ、評価点を3とした。

コンサルタント：赤石委員、いかがか。

赤石委員：全体の実施率が下がっているため、評価点を4とした。施設の特徴によって必要となる点検頻度は変わらと思うが、施設ごとに頻度を変えているのか。それとも、すべての施設で同じ頻度を設定しているのか。

事務局：空調の点検については3か月に1回ということで定めている。点検は法令に基づいて実施しており、基本的には施設ごとに変えるということはない。

コンサルタント：古後委員、いかがか。

古後委員：低実施率の項目である「エレベーター、エスカレーターの不要時停止」は、誰かが止めなければならないため、職員が日常で実施できることの限界があるのではないか。このまま項目に含めておくべきか疑問がある。他の項目は実施率が高いため、評価点を5とした。

事務局：「エレベーター、エスカレーターの不要時停止」の項目については、不要時の認識に違いがある可能性があったため、今年度から周知を行い、改善が想定される。この項目に限らず、数パーセントの未実施が残る場合は、要因を調査して改善していくか、どうしても実施できない要素があることを確認した場合は、項目から除外してもよいと感じた。

評価項目(6)研修の実施、環境法令の遵守、内部環境監査、情報公開

コンサルタント：意見が分かれているため、できるだけ多くの委員に伺いたい。石川委員、いかがか。

石 川 委員：昨年も議論した内容だが、規則やルールはどの程度遵守したかではなく、できたかできなかったかで判断すべきだと考える。法令遵守については、あまり厳しい措置にすると不適合を報告しにくくなる恐れがあるという意見もあり、考慮する必要がある。しかし、せつかくこれだけの取り組みをしている中で、法令を遵守できていないということは、市民として悲しいと感じる。

コンサルタント：前田委員、いかがか。

前 田 委員：研修実施率の高さは評価できる。法令遵守については、不適合ゼロにしなければならないが、人的ミス等があった場合に報告しないという動きになる可能性もある。そのため、アスベストについてはGビズの申請番号を共有し、紐付けて管理することが有効だと考えられる。また、管理体制はある程度の単位に限定して確認した上で、最終的な確認を行うなど、しっかりとした指揮系統にしなければ不適合ゼロは達成できないと思う。

コンサルタント：屋委員、いかがか。

屋 委員：行政として環境法令の不適合0が求められるため、しっかり対応していただきたい。一方、その他の項目は着実に実施されている。評価項目(6)としてまとめられているが、法令は毎年指摘されているため、項目を分けるなどして集中的に取り組む必要がある。

コンサルタント：赤石委員、いかがか。

赤 石 委員：法令の不適合件数は、2021年度と比べると大幅に減っており、その改善はすごいと思った。しかし、このまま来年も2、3件ある場合は、それ以上減らせない部分である可能性もあるため、別の対策を考えてもよいと感じた。

コンサルタント：奥委員長、いかがか。

奥 委員長：法令遵守以外はよく取り組まれているため、評価点を高めに4とした。不適合件数は減少しているものの、同じような傾向が続いている。同じ部署が繰り返しているのか、それとも違う部署が単発的に起こしているのか。

事 務 局：違う部署において発生している。

奥 委員長：単発的に起きているとなると、全庁的な周知を図っていただくしかない。来年以降もこのままでは大変厳しい状況であり、再発防止策についてもう少し踏み込んだ議論をしていただく必要がある。

事 務 局：法令遵守については内部監査委員会において、不適合があった施設には職員が監査を実施し、不適合について説明している。そのため、同じ施設で続けて不適合が発生することはない。その上で、今年度の初めに全部署に対し、法令ごとの遵守事項をまとめたチェックリストを配布した。こうした取り組みによって不適合ゼロになるとは限らないが、全職員の意識向上

に向けた働きかけを継続していく。

コンサルタント：杉崎委員、いかがか。

杉崎委員：参考資料2の40ページに掲載されている環境法令遵守の評価結果は、非常に整理されている。その内容を確認すれば、不適合ゼロを達成できるのではないかと思う。また、水銀やPCBは有害物質であり、使用機器の把握ができれば、不適合ゼロになるのではないかと期待している。

外部評価報告書 まとめについて

コンサルタント：参考資料4の実績報告書の(1)から(5)までの5項目と運用状況の計6項目について議論していただいた。最終的な評価結果を2025年度の外部評価報告書として取りまとめることになるが、最後に外部評価報告書における2024年度実績の「まとめ」の部分について議論を行いたい。2024年度の実績評価の中で特に重点的に取り上げたい項目を挙げていただきたい。評価できる部分と今後改善が必要な部分と、皆さんのご意見を伺いたい。

古後委員：評価項目(6)は4つの項目が含まれている。その中には、努力するほど評価が上がる項目と、法令遵守のように1つでも不適合があれば低い評価となる項目が混在している。温室効果ガス削減や研修の実施など評価できる点も記載してポジティブなまとめになればよいと思う。

杉崎委員：エコオフィス活動は意識して取り組まれており、評価できる。さらに、ペーパーレス化や温室効果ガス削減も意識して取り組まれている。一方で、事業系一般廃棄物の見直しは改善が必要な事項である。また、毎年指摘されているグリーン購入達成率については、意識改革に加え、システム面での改善も必要と考える。法令遵守についても、各事項を丁寧に確認すれば不適合は防ぐことができると考えるため、確実な実施を求めたい。

石川委員：毎年これだけの取り組みを誠実に実施し、改善事項を考え、効果が出ている項目も多くあることは、市民に知ってほしい。改善が必要な点については、市民も意識すべき事項であるため、まとめに含めることが望ましい。エコオフィス活動の項目は数多くあり、一つ一つの項目に取り組める職員の方々だと思うため、さらなる改善ができると良い。また、エコオフィス活動の項目を見直してくださることから、評価できると考える。

山川委員：全体として、細部まで真摯に取り組まれており、高く評価している。環境法令の遵守については、不適合ゼロにすることは大変な面もあると思うが、行政として指導する立場であるため、改善が必要な事項に含める

べきである。グリーン購入達成率は一定の割合を達成しているものの、市民を牽引する立場から、改善が求められる。温室効果ガスは大幅に削減されており評価できるが、エネルギー使用量については、市民や事業者が苦勞しながら削減に取り組んでいる状況を踏まえ、先導的な取り組みが必要であり、改善事項に含めることが妥当である。エコオフィス活動については、他の委員と同様に評価できる。

奥 委員長：評価できる事項には研修の実施を追加するとよいのではないか。改善が必要な点としては、温室効果ガスが削減されているにしても、エネルギー使用量が増加している点を指摘する必要がある。また、グリーン購入、環境法令の遵守、資源（市庁舎の廃棄物）の分別についても改善事項としてまとめていただくとよい。

赤 石 委員：昨年のまとめを見ると、(1)～(6)の項目ごとに記載されているが、例えば(6)の項目では、環境法令は改善事項である一方、研修の実施は評価できる内容である。そのため、項目単位ではなく、より細かい内容で分類した方が、見せ方として適切ではないか。

奥 委員長：各委員から様々なご意見があった。本日ご審議いただいた内容及び会議後にご提出いただく「評価シート」の内容をもとに、報告書をまとめさせていただきたい。作成した報告書案は、後日各委員に送付するので確認をお願いしたい。そのうえで、最終的な報告書の完成にあたり、文言等、軽微な訂正は、委員長一任で修正させていただきたいと思うがよろしいか。

全 委 員：異議なし。

連絡事項

- － 今後の外部評価委員会の流れについて、事務局から説明した。
- － 事務局から挨拶。

以上